

令和元年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

建築学科 教授 三島 雅博

三島雅博教授は、平成9年4月に着任して以来、教育、研究面および学校運営において次のような活動実績を残してきた。

教育活動では、主に建築設計製図や建築史に関する授業を担当してきた。建築設計製図については、建築関係の月刊誌を定期購読することにより常に新しい建築情報を取り入れ、建築設計に関わる問題意識や造形の傾向を授業の課題や学生への指導に反映させてきている。建築史の授業では教科書に囚われることなく、常に最新の学会での研究成果に取り入れ、授業に反省させるようにしている。また近年は座学の授業を板書中心のものからプロジェクターを用いたビジュアルなものに更新して、学生の興味を引き、かつわかりやすい授業を心がけており、その結果、学生の授業評価アンケートでは常に高い評価をえている。

また、建築学科では建築の初学者である1,2年生に対して彼らの建築イメージを向上させるために、秀な建築物を見学体験させる日帰りの建築見学の企画を立ち上げ、高専カレンダーの変更により日程的余裕が無くなって休止するまでの約20年間責任者として継続させた。

研究教育面での学生指導の点で優れた成果を得ており、2018年9月に東北大学で行われた日本建築学会大会学術講演会で三島教授が指導し共同発表を行った専攻科学生が建築史部門での「若手優秀発表賞」を受賞している。

研究面では、日本近代建築史を専攻し、近年は特に近代和風建築を研究題材に採り上げている。その研究成果は豊田高専紀要や日本建築学会で発表しており、高い評価を得ている。学会活動では日本建築学会東海支部の建築史意匠委員会に所属して、その活動に積極的に参加し役割を果たしている。

課外活動では、弓道部の部長教員副部長教員を赴任2年目の平成10年から務め、師範や他の部長教員との協働で、弓道部を全国高専の強豪校に引き上げた。またラグビー部やSD研究部の副部長教員も並行して務め、課外活動に貢献している。

学校運営では学科長を2年、主事補業務では学生主事補を計8年、教務主事補を2年、専攻科長補佐を2年務めており、現在は寮務主事補として7年目の務めに入っていて、豊田高専のほぼ全ての主事グループに属し、その中で精力的に活動し主事を支えた。また、寮務主事補と並行してキャリア教育支援室員も7年務めている。指導教員も本科で5年、専攻科で2年間務めており、主事補と兼務であった期間も長い。

さらに2009年の本校で実施した全国高等専門学校デザインコンペティション実行委員長を務め、建築学科環境都市工学科を始めとする教員の助けを得て、成功に導いた。また、その報告集の発行に際しては、自ら編集及びデザインを行った。

以上の通り、三島雅博教授は、教育・研究・課外活動及び学校運営における活動に顕著な功績があるので、顕彰する。

## 令和元年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

情報工学科 教授 木村 勉

木村勉教授は平成2年4月に着任して以来、次のような活動実績を行ってきた。

研究面においては、障がい者支援、特に聴覚障がい者を対象とした支援に関する研究を続けている。これまでに障がい者団体や水族館、科学館などと協力し、携帯電話やスマートフォンを用いた支援システムを開発してきた。これらの研究成果は学術論文、国際会議、書籍などにまとめられている。このような研究活動が認められ、これまでに科学研究費補助金の研究代表者として4件（基盤研究B、基盤研究C、萌芽研究）、研究分担者としても7件（特定研究、基盤研究A、萌芽研究）採択されている。これは研究活動もさることながら、ここ10年以上継続も含め、研究代表者として毎年2、3件の申請をしている努力の成果でもある。また科研費以外にも科学技術振興機構や民間の助成金もいくつか獲得している。

地域貢献においては、平成16年から情報工学科公開講座の主担当として講師を務めてきた。近年は小学校やとよた科学体験館、交流館といったところで、年に数回の出前講座を毎年実施している。同教授が実施する講座は大変好評で、毎回定員を超える応募がある人気の講座となっている。

講座の内容は毎回見直しを行っており、場合によっては使用する機材を更新して、刷新している。当初はライントレースを行うだけのロボットプログラミングだけであったが、ロボットを新しく変えて、開発環境がより使いやすくなったこともあり、ロボカップジュニアのレスキューチャレンジに対応した講座を開催するまでに至った。また受講生の年齢層に応じて、使用するロボットや開発環境を整えており、小学生低学年から高校生までに対応できるテーマを準備し、受講生のレベルに合わせた講座を開いている。

さらに講座には常に最新の技術を取り入れるように心がけている。ロボットだけでなく、小型コンピュータを使ったフィジカルコンピューティング、スマートフォンアプリの作製、さらにはドローンプログラミングを行うなど、社会のニーズに合わせた講座を開発・実施している。

受講者の中には豊田高専に入学する学生もおり、地域貢献だけでなく、本校の評価も高めている。

課外活動においては、平成2年度に女子バスケットボール部が創設されたときから現在まで部長教員を担当している。平成9年度に本校で開催した東海地区大会のときに沼津高専女子バスケットボール部を招待し、交流戦を実施した。たった1試合だけであったが、これが女子大会の始まりとなり、現在まで続いている。

以上のとおり、木村勉教授は、研究、地域貢献および課外活動指導といった面で顕著な功績があるので顕彰する。

## 令和元年度 豊田工業高等専門学校教員顕彰理由書

環境都市工学科 松本 嘉孝

松本嘉孝准教授は、平成17年4月に着任して以来、次のような活動に取り組み、実績を残してきた。

教育面においては、平成19年度より「授業手法支援ツール」開発活動を実施し、教員FD活動の新たな手法を提案した。この成果は、高専教育フォーラムなどでの発表9(件)や高専教育への論文発表4(件)などで公表している。また、この活動は、平成24年度には科研費C「高専教員の教育力開発を目的とする、授業スキル向上支援ツール開発とICTによる共有」、平成26年には科研費B「実践的教育を可能とする教育スキルアーカイブの構築とICTによる共有」の助成(分担者)を受けた。平成28年度にはFD活動に関するシンポジウムを企画し、全国の高専へ授業手法支援ツールの普及およびFD活動の促進を図った。この教育活動については、平成23年度に「ICTによる新授業改善法の確立と全国への普及」において、国立高等専門学校機構 理事長賞(若手部門)を受賞した。この他にも教育関係の発表14(件)、論文12(件)を公表するなど、教育FD活動に尽力している。

研究・学術活動面においては、主に森林から流出する物質の研究、超音波技術を用いた底泥測定などを行っており、着任以来の発表は68件、論文発表は25件、書籍は2件である。また、研究活動の外部資金の獲得状況としては、科研費若手Bが2件(代表者)、基盤Cが2件(代表者)、分担者(5件)、その他補助金は12件である。加えて、日本陸水学会東海支部の学会幹事を4年、土木学会中部支部研究優秀研究発表賞選考委員を6年、土木学会環境システム委員会委員を5年勤めている。

学校運営面においては、平成20年度から21年度、平成27年度から29年度は寮務主事補を、平成23年度は教務主事補、平成25年度は学生主事補を務めた。各期間において、主事を補佐する立場として様々な業務に積極的に取り組んだ。また、その他にも毎年各種委員会や室員などを担当した。

課外活動面においては、平成18年度から30年度は女子バレーボール部部長教員を、平成30年度から現在は山岳部部長教員を務めている。山岳部部長教員として、学生の安全管理の徹底をはかるために、ワークショップなどに参加し、自身の山岳技術の向上や学生への安全教育を実施している。

地域連携面においては、平成30年度から豊田市上下水道局との連携授業を実施しており、平成30年度にはその様子が、日本水道新聞、日本下水道新聞に掲載された。また、豊田市における各種委員を平成29年度から、愛知県の委員を平成30年度から、国土交通省中部地方整備局の委員を令和元年から務めている。

また、平成24年度には人事交流制度により豊橋技術科学大学に赴いた。平成26年には国立大学改革強化推進事業 三機関が連携・協働した教育改革 教員のグローバル人材育成力強化プログラム(長期)に参加した。

以上の通り、松本嘉孝准教授は、教育、研究・学術、学校運営、課外活動、地域連携の各方面での活動に顕著な功績があるので顕彰する。